

あかつき 同窓会報

編集と発行 田原東部小学校同窓会 題字 白井 優 (昭和15年卒)

印刷所 なつめ総業(有)

田原東部小学校区 H31. 4. 1現在			
—— 田原東部の人口 ——		——	
地区人口	児童数 (R1.5.1)		
豊島	2,069	130	
御殿山	436	89	
谷相川	618	36	
やぶま台	182	5	
合 計	753	39	
	4,058	299	

同級会にて



同窓会長 白井 庸
(昭和三十四年卒)

昨年の秋、平成のうちに同級会をということで、年次委員の人たちの尽力により、二クラス合同で会を催すことができました。出席は二十四名でしたが、それでも隣の静岡、遠くは栃木の日光からの参加もあり、懐かしい顔ぶれがそろいました。

学校時代の思い出話には余念もなく時を忘れます。

そんな中、『現在、母校で当時の様子を直接うかがえる物は、えのみの木、正門の石柱、一宮金治郎の立像くらい話題に上がりましたので紹介します。

金治郎の立像は昭和の初期、

全国の小学校に設置が広まったようです。そして、そのほとんどが、石像、もしくはコ

ンクリート製、青銅製は稀でした。母校のそれは、田原市内では唯一、常滑焼の陶製です。美術品と紛うほどの美しい像です。しかし、私たちの在校時には大切な本の部分はありませんでした。不思議に

は思いましたが、とにかくあ

りがたい物として歳月が過ぎ

ました。

平成に入ると、他県では、

金治郎立像は、児童虐待や、

はたまた、『歩きスワホ』を

助長するとかで、切り株に腰

を下ろして本を読むスタイル

に換えて、再建した学校も

あったようです。

現在、母校の金治郎像は、

すでに薪の部分や鉛板もなく

なっています。しかし、凛と

した七十回の立像は、しつか

りとした足どりの一歩、左足

を踏み出しております。

新元号のもとで、金治郎像

は、進出、チャレンジの大切

さを伝えるにちがいない。

・等々、他にも話は尽きませ

んでした。



田原東部小学校長
山本 哲男

新たな時代と思う

同窓生の皆様、いかがお過

ごでしょうか。本校は現在

二百九十九人の児童が在籍し

ています。三年前から児童数

は減少に転じ、現在は学年二

学級ですが、近い将来には学

年単学級の学校になっていく

見込みです。寂しい限りです。

さて、五月、新たな時代令

和が幕を開けました。平成が

始まった三十年前、私たちは

現在の生活をどれだけ想像す

ることができたでしょうか。

スワホの画面をなぞるだけで

地図が移動したり拡大したり

すること عندما 前のことと

感じている私たち。冷静に考

えれば、そんな理解不能なこ

とにも驚きや疑問を感じる暇

がないほど、変化の速度は大

きかっただのです。

令和がどんな時代になって

いくのか、二十年三十年先に

想像を膨らませて、それを

遥かに超える像が待っている

のでしょうか。ある科学者は、

未来の人間は、脳だけが有機

体で、体は全て機械になると

予測します。それは人間では

ない、絶対にあり得ない、と

思うかもしれませんが、人間

が「長く生きたい」「便利に

なりたい」と今まで通りの欲

求の道を進んでいったら、あ

り得る話かもしれません。

人間は生物としての自然な

姿を望む一方で、病気になる

ば最新の医学で治したいと願

います。わがままな存在です。

蜷川を吹き渡る風の香りや暖

かさを肌で感じる一方で、匂

いセンサーや温度センサーで

検出するデータの恩恵も享受

しています。

世の中は「変化に対応でき

る人材の育成を」と、学校に

発破をかけます。進歩に抗う

つもりはありませんが、機械

やセンサーでは絶対に置き換

えられない人間の機微を大切

にすることも教育の大きな使

命であると思います。

この文章を読んだ未来の人

間が、「原始人ね」と一笑に付

すかもしれません。そのとき、

「あかつき句う」を熱く語る

ことのできる人間が少しでも

残っていることを、私は願

います。